

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 4 月 7 日

所属	学長付	職名	教授	氏 名	吉竹弘行
研究課題	「”安全・安心のまちづくり”のための教育」及び「養蜂事業による地方空港活性化（S-HART 事業: Sustainable Honey Airport & Resilient Town）」に関する研究				
研究キーワード	防災教育、地区防災計画、地方空港、養蜂事業		当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した	
関連するSDGs項目	4. 質の高い教育をみんなに	11. 住み続けられるまちづくりを	15. 陸の豊かさを守ろう	17. パートナリーシップで目標を達成しよう	

1. 研究成果の概要

「”安全・安心のまちづくり”のための教育」

① 学長プロジェクト3（安全・安心な都市・地域づくり）のプロジェクトリーダー業務に関する事項

- ・学長プロジェクト報告書籍第2版の執筆及び執筆進捗管理(学内執筆者はプロジェクト3メンバー、外部執筆者は、国府台コンソーシアム参加機関、あいおいニッセイ同和損害保険会社、三和商事、STEP えどがわ等)
- ・プロジェクト進捗管理、公開講座(3回)・リーダー会議報告(6回)・全体会議(6回)の企画・運営。

② 防災教育に関する事項

- ・国府台コンソーシアム（国府台地区 9 教育機関と国府台病院をメンバーとする地域交流、防災連携対応団体）の防災分科会長として分科会運営、幹事会・総会、フォーラムの企画・運営。

- ・市川市後援の下、消防・警察・企業(あいおいニッセイ同和損保、三和商事他)協力を得て、10月に300人規模の地域防災教育イベント開催

(千葉テレビ報道 [【特集】楽しく「防災」学び身に付ける \(2024.10.08 放送\)](#))

2024年「防災の日」実施場所



- ・地域防災教育活動で作りに上げてきたネットワークを活用して、「松戸街道歩道拡幅」について、地域で検討し、市・県へ要望していくための研究会を3月に発足(発起人は、市川市自治会連合協議会会長、市川三丁目第一町会長、市川市高齢者クラブ連合会第1部会長など)、2025年度から実活動開始予定。この運動の推進等により拡幅実施に至れば、本学として通学・通勤利便性向上、擁壁上部の崩落災害回避等の成果が得られる。
- ・なお、本件は、総合研究センターの「競争的プロジェクト」として継続研究。

「福島 S-HART 事業（養蜂を活用した福島空港地域活性化事業）」

本学とあいおいニッセイ同和損害保険（株）との「SDGs 及び地域活性化に関する協定」の第一号事業として地元高校・企業等と連携した活動として実施。昨年度までに、開発協力商品の商標登録、須賀川市ふるさと納税返礼品採用、「ふくしま産業賞学生銀賞」受賞、参加高校生の本学入学等の成果を上げたが、今年度は、学生と活動報告を共同執筆、学会発表(シニア社会学会査読付論文)。

これらの成果を継続的なものにしていくため、学生と福島空港地域活性化のための PR 動画作成・公開。

[\[PJ3\] 学生による「福島 S-HART 事業」の紹介動画が公開されました! | 学長プロジェクト | 千葉商科大学](#)

また新規のパートナーとして福島県立青稜情報高校と高大連携プロジェクトとして活動継続することについて合意。

2. 著書・論文・学会発表等

【論文（査読あり）】

共著、SDGs 社会における空港マネジメントー都市養蜂事業を活用した福島空港地域活性化への試行的研究、シニア社会学会誌「エージェレスフォーラム」,第 22 号,p31-39,2024

【著書・論文（査読なし）】

共著、叢書 SDGs と大学 3 「安全・安心な都市・地域づくり」、千葉商科大学、2025.3.31

電子版 <https://www.cuc.ac.jp/prespit/pj03/?pNo=1>

3. 主な経費

S-HART 事業関連の広報資料作成、現地取材、地域関係者との打合せ等の為、福島県出張

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

(本文は 2 ページ以内にまとめること)